



リチウムイオン電池にご注意ください！！

近年、電気器具類を原因とする火災（家電製品や電気配線を原因とする火災）が増加しており、平成25年は1,431件でしたが、令和4年には2,018件と約4割増加し、住宅火災の原因の第1位となっています。

過去10年間の電気器具類の火災件数の推移を見ると、**リチウム電池と充電式電池の火災件数の増加が顕著となっています。**

事例調査を行ったところ、充電式電池（リチウムイオン蓄電池を含む）の出火原因是、機器の不具合の割合が大きく、その他には、不適切な使用によるものがありました。

【火災事例】

事例1 「運行中の電車内でモバイルバッテリーから出火した火災」

乗客の鞄の中に入っていたモバイルバッテリーが何らかの要因により短絡し出火したものでした。運行中の電車内で乗客が所持していた鞄の中から勢いよく煙が出ているのを発見しました。



電車内の焼損状況（復元）



モバイルバッテリーの焼損状況

事例2 「無人の事務所で携帯型扇風機から出火した火災」

事務所のデスク上で充電中の携帯型扇風機が何らかの要因で短絡し出火しています。無人の事務所のデスク上で携帯型扇風機が充電されていました。発見は、下階の居住者が自動火災報知設備の鳴動音と上階からのたたきつけるような物音に気が付き上階を確認すると、廊下から煙が出ていたため、自宅の固定電話から119番通報をしています。



事務室焼損状況



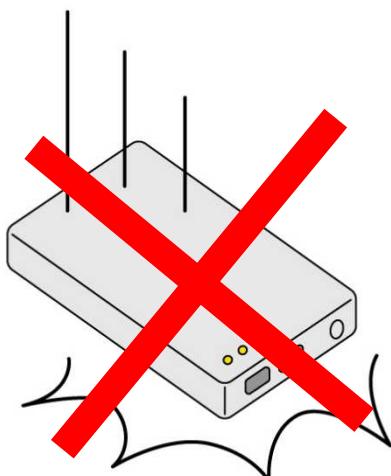
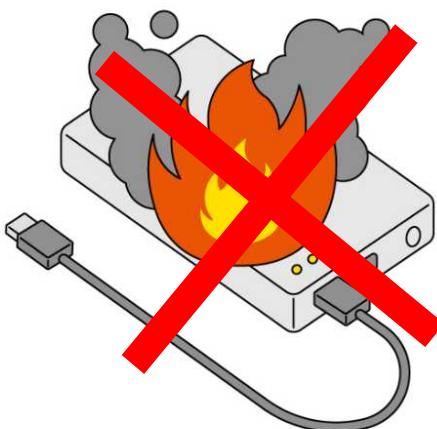
携帯型扇風機の焼損状況

リチウムイオン電池を安全に使用するためのポイント

- 乳幼児やペットのそばに放置しない。
- 高温、火気、水気を避ける。
- 強い衝撃、分解・改造、模造品の使用は厳禁。
- 機器や充電器は正しく使用し、必ず指定の充電器を使う。
- 長期間使用しない場合は電池を機器から取り外す。
- ショート（端子同士が接触すること）させない。
- 異常を感じたら使用を中止し、取扱説明書を確認する。
- 処分する際は、地域のごみ回収方法をよく確認する。

※万が一発火した時は、電池から煙や火花の飛び散っているときには近寄らず、火花が収まっているから消火器や大量の水で消火するとともに119番通報してください。

新規で購入する際は、PSEマークを確認しましょう。電気製品が安全性を満たしていることを示す製品には「PSEマーク」が表示されています。



〈参考文献〉

総務省消防庁

「リチウムイオン蓄電池からの火災に対する注意喚起について」

<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/20240909jimurenraku.pdf>